

小山勇朗市議会報告

2021年
3月25日

社民フォーラム
市議団

2021年仙台市第一回定例議会開催、期間は2月8日～3月12日、新年度一般会計5,764億円、特別会計3,134億円、企業会計2,196億円、10年連続1兆円超えの予算となりました。

議会冒頭に、「郡和子」市長が令和3年度の施政方針への所信表明があり、その中で東日本大震災という苦難の中で、復興の道程を切り開いた市民の皆様、お一人おひとりの力、地域の絆を信じ、困難なコロナ禍を市民の皆様とともに乗り越えてまいりたいと述べ、未来への投

資を積極的に行い、本市の持続的な活力を創出してまいりますとの決意を表明。更に、「社会変化を力に変えるまちづくり」「人のつながりが育む豊かな地域づくり」「杜の都の可能性を広げるまちづくり」の3つを市政の柱に据えることを

明確にされました。また2021年度から10年を計画期間とする「仙台市基本計画」と「仙台市環境基本計画」も議決案件であることから、予算等審査特別委員会で審査されました。基本計画では、まちづくりの理念として「挑戦を続ける・新たな杜の都へ」Greenest City “sendai”が掲げられました。また環境基本計画が目指す環境都市は、「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」と決定されま



条例の改正では、コロナ対策を踏まえて危機管理室を局に格上げ、国の小学校35人以下学級方針を先取りし、小学3年生に実施することとしました。そのための教員を109人増員いたします。今議会から新しく会派名変わり「社民フォーラム市議団」となりました。会派代表質疑を「辻隆一代表」が行い、一般質問には「小山勇朗議員」と「ひぐちのりこ議員」が登壇しま

した。財政的には、コロナ禍の影響により5.4%減、固定資産税も7%減、法人市民税も国の施策もあって28%減と大幅な財政減収見込みとなっています。財源不足分については、財政調整基金から230億円繰り入れ、市債管理基金から30億円借り入れて補填するなど厳しい財政運営であります。また、向こう3年間の財政見通しも厳しいものがあり1,033億円の収支差が見込まれています。

した。代表質疑では、郡和子市長の施政方針に対する考えとして、社会変化を力に変えるまちづくり、地方主権の視点で市政運営を進めること、音楽ホール建設の後退感、女川原発再稼働に対する認識、県が進めようとしている3病院の統廃合問題等について質しています。小山勇朗議員は、新型コロナウイルス感染防止及び自宅療養者・ホテル等宿泊療養者、医療機関の受け入れ体制の確立、公的病

院と民間病院・診療所の連携強化を中心に質しております。特に、感染防止対策として、東京世田谷区方式とも言われている「無料でプール方式によるPCR検査拡充」を求め、市中感染防止、コロナウイルス変異株の早期発見につなげるよう求めています。また一人暮らしの方の自宅療養については、血液中の酸素飽和濃度を測る「パルスオキシメーター」を貸し出ししているだけでなく、使用マニュアル、容態が急変した場合の対応、医師による回診について体



制確立を求めています。コロナ関連で休業や廃止、倒産などにより生活困窮になっている方々の救済として、政府が急遽決定した「休業支援金」について、個人が申請できる制度を知らない方もいるので、仙台市として早急に相談窓口を開設し、申請者に寄り添う取り組みを求めました。中小零細企業も厳しい事業運営となっているので政府が予備費活用で支援する無利子無担保の融資を受けられる体制を早めに対策を講じることも合わせ求めています。



小山勇朗議員の予算等審査特別委員会での質問、

一つは、豪雨のたびに浸水被害に遭っている「郡山・谷地田地域」の対策について、国・県・仙台市がどのように進めているのか質しました。①荒川樋門ゲートの開閉問題については、仙台河川国道事務所において、樋門操作員と職員による洪水時を想定した樋門操作訓練を令和2年8月に実施している。②排水ポンプ車の操作訓練については、国、県、市が現地にポンプ車を配置した訓練を実施している。ま

内水氾濫対策として豪雨時対策の名取川への放流管渠の早期完成と四郎丸地域・昭和北地内の水路改修、泥の撤去も重要な取り組みです。この水路と民地の境界線が不明な場所もあり、今年度予算で境界画定を行うことも答弁されています。また、昭和中地内の用水路からの氾濫対策として、接続マスの改善と下流の側溝清掃も合わせ要求して

た、排水ポンプについては令和3年3月、新規に一台配備した。③荒川樋門操作システム導入については、インターネットを介して共有できるシステムを令和3年2月に導入した。④荒川樋門の量水標、水位計の改良については、令和2年5月に完了している。⑤漏電対策については荒川樋門にある「電源設備①」を変更することや、予備電源の確保等の漏電対策を令和2年4月に完了していることを引き出しています。

おりますので、4月はじめには豪雨で浸水する十字路交差点の改善につながるものと考えています。



次に、指定避難所に対する「コロナ対策」として、コロナ感染防止備品の配備点検、現在のようにコロナ禍の中で自然災害が発生すれば、指定避難所ではコロナ感染防止対策に対処しながら避難者を受け入れることになるので、コロナ感染がなければ受け入れられる人数も最大限の人数を受け入れられますが、ソーシャルディスタンスを考えれば予定の半分以下の人数になるので、予備的避難所の確保が必要と訴え、更には、地域の運営委員会と

秋保・釜淵地点における落石防止センサー設置による監視強化について、説明会では大滝公園の場所に1か所、野尻川から来る所に1か所として落石警報装置を設置して通行車両に注意を呼びかけ、釜淵の現場には、空気送入の車両停止標識を設置するとしていますが、大滝側から通行していく車両については、釜淵まで若干の距離があることから、途中、道路の一部が拡幅されている場所があり、U

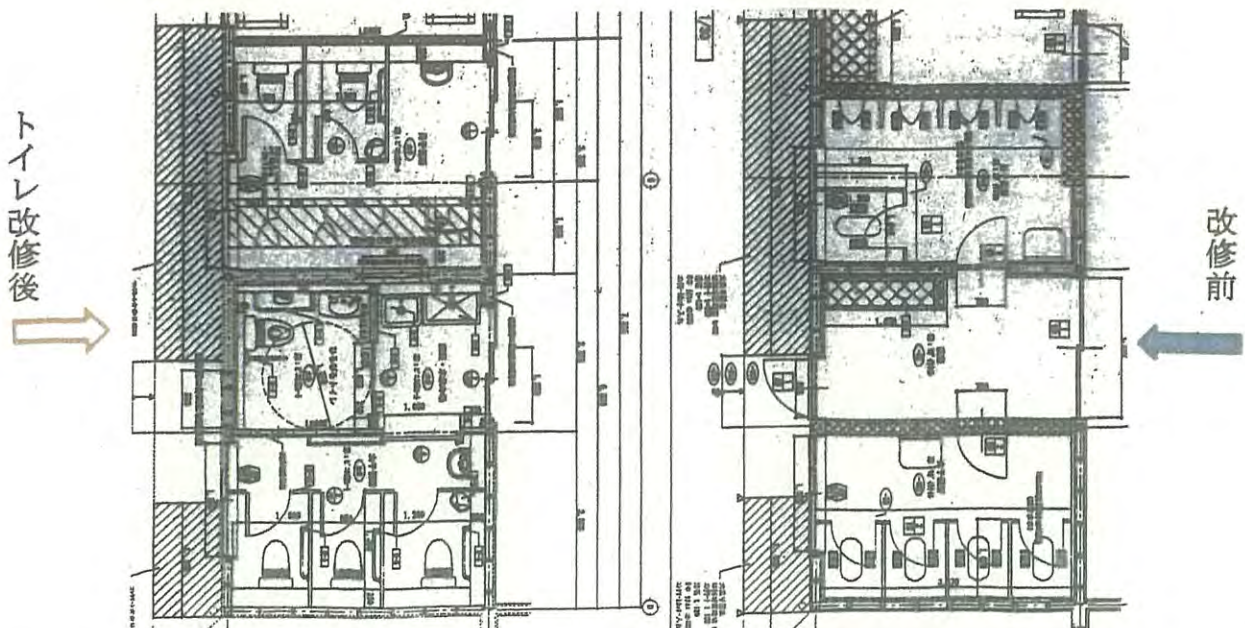
の具体的な協議を進める必要を求めました。また、高齢者施設や障がい者施設と福祉避難所の関係において、搬送や受け入れ等のマニュアル、連絡体制、学校・危機管理局、避難所運営委員会の研修、協議の状況について質しています。更新期を迎えた「地震体験車」に替えてVR技術を用いて体験型防災学習機能充実を図りたいという提案がありましたが、防災センターの建設なども明確にされない中でVR技術による防災体験は無いとして、19年間活用してきた地震体験車は、震度によ

ターンも可能なのでその場所にも落石警報装置を設置することと合わせ、現実には、落石事故が発生し完全に通行禁止になった場合の対応として、被害車両の有無確認、落石現場の復旧、安全を確認した後に車両の通行を許可すべきでありますし、それらの手順を作成しておくべきと質しました。また、野尻地域でお暮しの方々は完全に身動きができなくなるわけで、仕事の関係、急病人が出たとき、学校の関係などの生活援助、救援対策についても

る体感を学ぶのに素晴らしいものがあるとして、更新を求めましたが、一台5000万円の経費になるので、令和3年度一杯使用し、廃車とするという答弁であります。

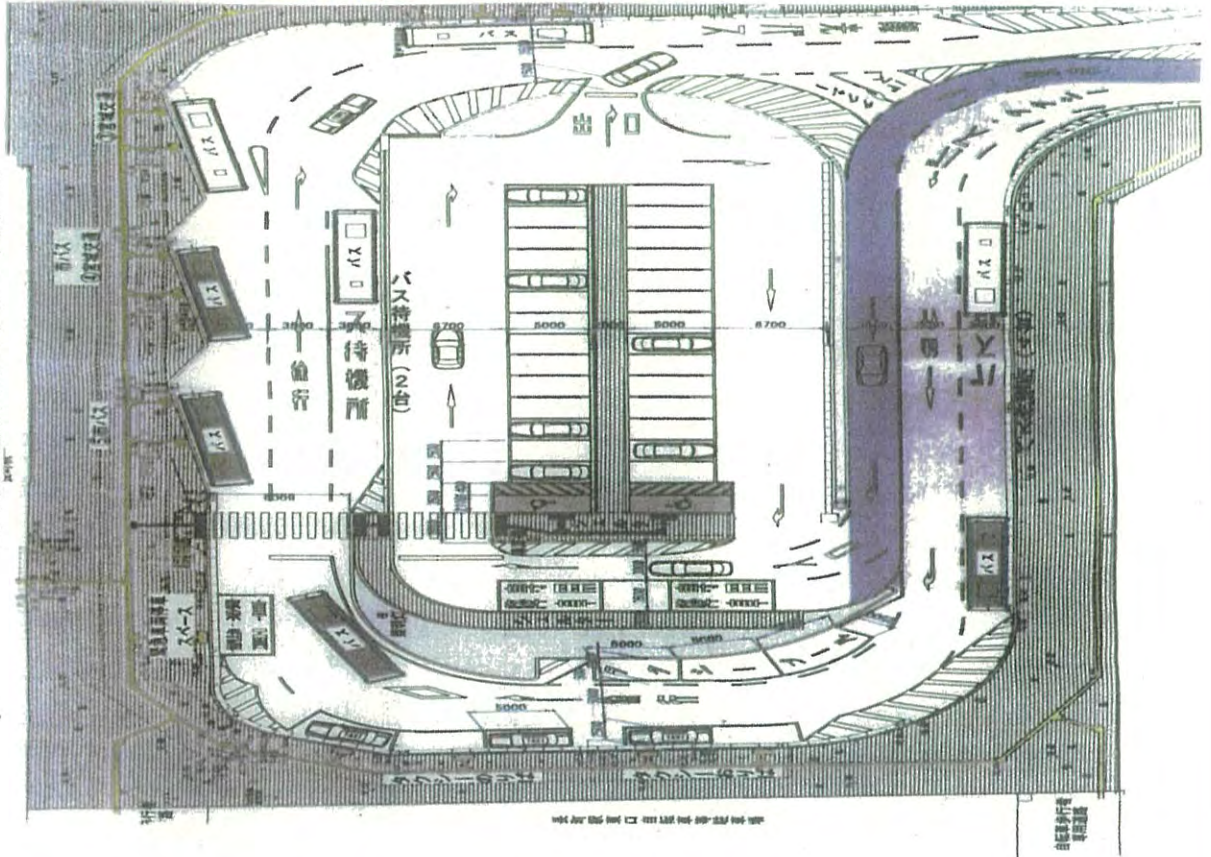
マニュアルを作成しておくべきと求めています。当局からは、警報装置の増設、落石被害が発生した場合のマニュアル含め対応していくことを答弁されました。

袋原小学校体育館の「トイレ改修」について、PTA、学校、地域の皆さんから強く要望されておりましたが、令和3年度予算の中で改修することが決定されました。



JR長町駅東側の「バスプール・タクシー乗り場」の改修事業が下記の内容で始まります。

長町駅 運用開始は令和3年度4月～



「以前から利用者の要望が強かった長町駅東口、バスプール内の改修について、図面に記したとおり改修されます。全体の工事は、2年程度必要とされておりますのでご了承ください。」

郡和子市長が進める「地域交通政策」が市内各地で進められています。生出地区に始まり、燕沢地区での本格運行、太白区・秋保地区では、「ぐるりん秋保」の試行運行の出発式が行われました。期間は1/18～3/31。平日6:00～19:00

